

平成 30 年度
夕照たまのうら 事業報告書

1. 事業総括

平成 30 年度の事業計画において、施設運営 4 本の柱を立て、施設の理念である「共に笑い、共に楽しみ、共に生きる」を目標に職員一同邁進してきた。

しかしながら、開設初年度ということもあり、種々の課題が山積する中、目前のことに追われる日々が続いた。下半期に入り、徐々にご入居者も落ち着いてこられ、ボランティアによるイベントや、サークル活動にも少しずつ取り組める様になった。

とはいえ、近年、特養入居者の高齢化、重度化が顕著になっており、開設直後から医療的対応が必要となり入退院を繰り返される方、治療が長引き施設に帰ることが困難になった方、看取り介護を望まれる方等多数おられ、入退居が頻繁に行われた 1 年となった。そのため、空床期間が長くなり、経営的にもより厳しい結果となった。

ショートステイにおいては、地域ニーズも高く予定より順調に推移した。

2. 重点実施項目

①入居者・利用者の QOL（生活の質）の増進

「人格・尊厳を尊重し、プライバシーを侵害せず、選択肢があり、主体性を発揮して暮らして頂く」ことを運営指針に掲げ、運営を開始した。開設初年度の繁忙期と相まって、まだまだ全体に周知できているとは言い難いが、今後も目指すべき重要事項として、職員一同しっかりと取り組んでいく必要がある。また、個別ケアの視点、重度の認知症の方への対応等、職員のスキルアップを図り、ご入居者のより快適な暮らしを目指す。

②職員の育成と就労環境の向上

開設前は、全職員を対象に、種々の研修や実技を実施した。しかし、開設後は新規入居者の受け入れに追われ、ご入居者も職員も不慣れな中、計画的な実施には至らなかった。

とはいえ、近年のご入居者の重度化に対応するべく、高度な対応能力が必然的に求められる中、滋賀県等でもその必要性を鑑み、2019 年度は 600 人規模の段階的な研修を予定している。そうした機会も活用しつつ、しっかりと内外の研修を実施していきたい。

また、職員の働く環境を向上させることは、社会の趨勢となっており、休憩の確保、長時間労働の回避、有給休暇の取得等、時代に合った体制創りは必須である。年々、人材確保が困難になる中、働き易い就労環境を整えることは喫緊の課題である。

③安定的経営基盤の確保

30 年度の特養の退居は定員の 30%となっている。特養、ショートステイ共に、空床期間を少なくし、目標の稼働率を維持出来るように努め、経営の安定を図る。

④地域連携・貢献活動の推進

地域の介護が必要な独居高齢者や高齢者世帯の方からの特養入居の希望は多い。しかし、特養待機者が 200 人以上ある中、先ず、ショートステイの有効利用により、ご家族の負担軽減を図ると共に、ご利用者の社会生活の向上、地域貢献の一助になればと思う。